慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	英文論文執筆の為の若手講習会 (5月13日 三田キャンパス研究室棟会議室B) ; MRI特別安全講習会 (5月31日 三田キャンパス西校舎514教室)
Sub Title	Workshop for young researchers to write research papers in English ; MRI safety lecture
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	Newsletter Vol.9, (2009. 8) ,p.6- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	講習会
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000009-0060

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

講習会　英文論文執筆の為の若手講習会
Workshop for Young Researchers to Write Research Papers in English
（5月13日　三田キャンパス研究室棟会議室B）

2009年5月13日、慶應義塾大学研究室棟において「英文論文執筆の為の若手講習会」が開催された。当日は塾内外の大学院生を中心に非常に多くの出席があり、スタート直後に急遽座席数が増設されたほどであった。参加者の中には英文論文執筆経験のない学生も多く、「英文論文執筆」への高い意識が伺えた。

講習会は前後半に分かれており、前半ではグローバルCOE事務局から若手研究者発信支援の事務手続きが説明された。後半では小嶋祥三先生から英文論文掲載までの流れが説明された。執筆や再投稿等の過程が具体的に説明されたが、それは論文執筆経験のない者にとっても大変分かりやすいものであった。また、引用度数の高い論文執筆を目指すことに関連して各種データベースの使用法やImpact Factor (IF) の意味が説明された。IFを考慮することはもちろん重要であるが、それ以上に長く多数回引用される「良い論文」を目指すことが強調された。

講習会の中では、英文論文執筆を習慣付けることの大切さが繰り返し述べられた。確かに今の私にとって英語という第二外国語は一つの壁である。しかし、英語云々の前に論文執筆という行為さえ習慣付いていない、ということも今の私の正直なところなのだろうと思った。講習会の最後には、昨年度の同講習会を機に英文論文執筆を行った大学院生の例などが紹介され、私自身も大いに刺激を受けた。今回の講習会を通し、英文論文に関しては、まずは動いて（書く）慣れていくことが大切だということを再認識した。　（一方井祐子）

A “Workshop for Young Researchers to Write Research Papers in English” was held in Keio University on May 13, 2009. Professor Kojima specifically explained the importance of writing in English. Many participants, who are graduate students, listened eagerly and attentively to his lecture. Professor Kojima repeatedly emphasized that writing research papers in English should become a habit among young Japanese researchers, in order to transmit their findings to the world. Writing itself is enough a big challenge for me, even more in English! However, because of this lecture, I have come to feel that I should not shrink from English, but try to write as best as I can, until I get used to it.

講習会　MRI特別安全講習会
MRI safety lecture
（5月31日　三田キャンパス西校舎514教室）

2009年5月31日にMRI特別安全講習会が行われた。この講習会は、昨年2月にG-COEにより建設された、綱町グラウンドのMRI棟のMRI装置を利用し、新規に研究活動を行う研究者を対象として行われた。本来であれば、新規の研究申請者はG-COE MRI安全倫理委員会の定める安全講習および操作講習を受ける事が義務づけられているが、今年度に入って受講申請が増え、通常のスケジュールでは、希望者に対応しきれなくなったため、今回の特別安全講習が企画された。当初の予定では20名弱の参加者を想定していたが、結果として50名近い参加者を得た。講師には明治国際医療大学医学教育研究センター医療情報学ユニットの梅田雅宏先生を迎え、安全講習の他にMRIの画像作成の原理からDiffusion Tract Imagingに代表される近年のトピックスまで広く講義して頂いた。

「安全」に関する講義は、静磁場及び変動磁場が生体に与える影響の解説と安全確保の方法、ラジオ波が生体に与える影響及びSpecific Absorption Ratioの解説と運用方法、測定室内の備品についての注意点、緊急時の対応などについて実例を交えつつ、行われた。また、休憩を挟み、MRIの画像作成の基礎理論、画質向上のためのポイントについて講義が行われた。さらにトピックスとして、拡散強調画像の基礎と応用、Magnetization transfer効果の基礎と応用、Mn造影機能画像、MRSの基礎と応用について、解説が行われた。以上に記したように今回の特別安全講習は、高磁場環境での安全についてのみならず、測定の基礎理論から、実践面での注意点、最新の研究状況までを広く網羅したものとなった。

脳機能画像を用いた研究は、研究対象に関する知識以外に、縦断的な広い知識を必要とし、その中でも測定技術の理解は重要な意味を持つが、習得に多くの時間を費やさねばならず、自習の際の指針を立てにくいという事実がある。今回の特別安全講習が、受講者の今後の研究活動の一助となった事を期待する。　（染谷芳明）

On May 31, 2009, MRI safety lectures were delivered at the West Building. Associate professor Umeda, Meiji University of Integrative Medicine, delivered lectures on safety at high magnetic field. The other topics that were dealt with included the principles of MRI, image contrast, and recent research. A question-and-answer session followed the lecture. More than 40 people participated.